

2025年3月期 第2四半期決算説明会資料

2024年11月5日
株式会社ニチレイ

(1) グループ全体

- ・ 上期は概ね通期計画に沿って進捗、通期は第1四半期決算で上方修正した計画から変更なし
過去最高となる売上高7,000億円、営業利益405億円の達成を目指す
- ・ 今期計画で掲げたROIC7.8%、ROE10%以上、EPS204円の達成を目指す

(2) 主力事業

(加工食品)

- ・ 国内で好調に推移する調理品の販売数量の維持に注力
- ・ 海外事業はタイ子会社でのパーツ高、北米子会社での製品仕入コスト増の影響などを受け利益計画を引き下げ

(低温物流)

- ・ 国内の保管事業の業績は下期に向けて集荷拡大が進み増益に転換
- ・ 海外事業はCSR費用や新增設に係る償却負担増をカバーし増益へ

(3) 株主還元の強化

- ・ 連結業績やキャッシュ・フローなどを勘案し、自己株式の取得・消却、特別配当ならびに株式分割の実施を決定

- **2025年3月期 第2四半期実績 (P.3～8)**
- **2025年3月期 通期計画 (P.9～23)**
- **Appendix (P.24～36)**

注：当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し、一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。

第2四半期実績

■ 加工食品事業が引き続き全体をけん引し、売上高・営業利益ともに増収・増益

(単位：億円)

	第2四半期				上期				
	実績	前年同期間比		営業利益率	実績	前年同期間比		通期計画に対する進捗率	営業利益率
		増減	率			増減	率		
加工食品	774	59	8%	6.8%	1,552	122	9%	49%	7.1%
水産	138	△15	△10%		266	△25	△9%	53%	
畜産	170	△34	△17%		356	△58	△14%	52%	
低温物流	715	68	11%		1,373	114	9%	50%	
不動産	12	1	13%		24	2	9%	53%	
その他	15	4	33%		27	6	27%	43%	
調整額	△65	△6	—		△127	△10	—	—	
売上高合計	1,761	78	5%		3,472	150	5%	50%	
(海外売上高合計)	414	57	16%	808	111	16%	48%		
加工食品	52	13	31%	6.8%	111	33	42%	53%	7.1%
水産	0	△1	△89%	0.1%	0	△1	△71%	3%	0.2%
畜産	3	1	28%	1.7%	6	2	39%	63%	1.8%
低温物流	41	△5	△11%	5.8%	75	△11	△13%	46%	5.5%
不動産	5	1	23%	39.0%	9	1	10%	47%	37.2%
その他	3	2	982%	17.1%	4	4	—	41%	13.4%
調整額	△3	△3	—	—	△8	△5	—	—	—
営業利益合計	101	7	7%	5.8%	197	23	13%	49%	5.7%
経常利益	103	5	5%		206	25	14%	50%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	64	△3	△4%		129	12	10%	50%	

【売上高】

加工食品事業に加え、低温物流事業の海外事業が堅調に推移し5%増収

【営業利益】

加工食品事業が大きく伸長し13%増益

海外売上高 エリア別内訳 (上期)

(単位：億円)

合計	北米	欧州	東南アジア	東アジア	その他
808	196	363	138	59	53
(+111)	(+25)	(+60)	(+23)	(+5)	(△2)

※ () 内は前年同期間比、P.29に参考情報あり

為替レート	25/3 2Q	24/3 2Q
米ドル/円	152.25	134.84
ユーロ/円	164.59	145.76
バーツ/円	4.21	3.95

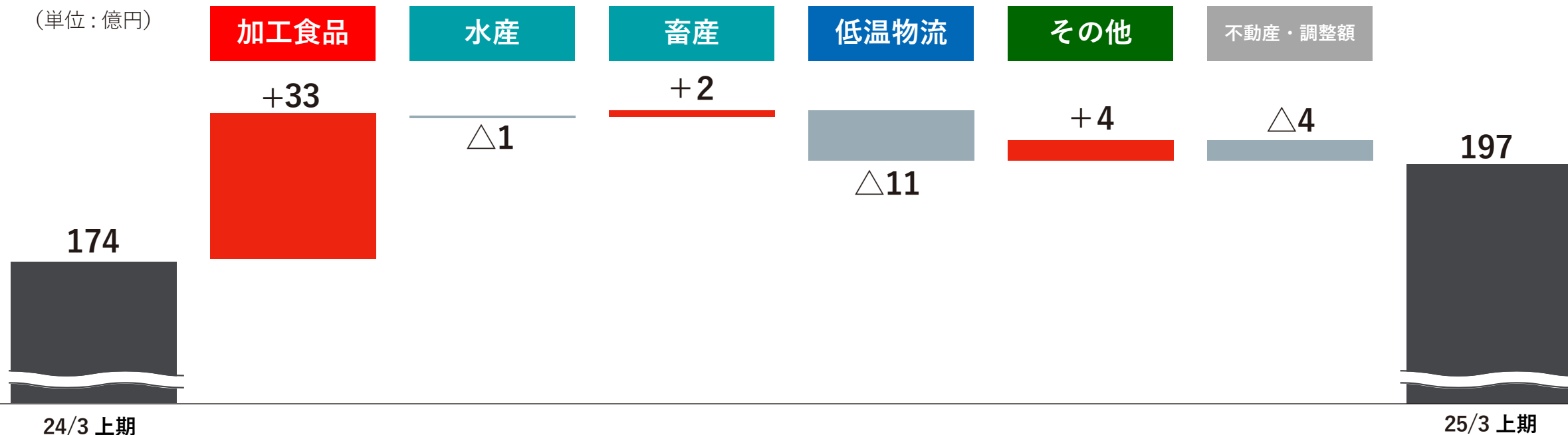
※ 1月～6月までの期中平均で算出

営業利益実績増減要因

おいしい瞬間を届けたい



(単位：億円)



加工食品

プロモーション効果などによる販売数量の伸長と、それに伴う国内外工場の生産利益の増加により33億円の増益

低温物流

前期の高在庫からの反動減や神戸六甲DCの償却費増などにより11億円の減益

その他

バイオサイエンス事業における新型コロナ・インフルエンザ抗原同時検査キットの販売伸長などにより4億円の増益

調整額

DXやサステナビリティ関連などの戦略費用が増加

■ 調理品の販売数量の伸長により、営業利益は上期では過去最高の111億円を達成

(単位：億円)

	第2四半期				上期					
	実績	前年同期間比		営業利益率	実績	前年同期間比		通期計画に対する進捗率	営業利益率	
		増減	率			増減	率			
加工食品	売上高合計	774	59	8%	1,552	122	9%	49%		
	家庭用調理品	229	20	10%	455	38	9%	49%		
	業務用調理品	266	18	7%	536	36	7%	48%		
	農産加工品	65	4	7%	129	10	8%	49%		
	海外	165	16	11%	345	40	13%	48%		
	その他	50	0	0%	88	△1	△1%	58%		
	営業利益	52	13	31%	6.8%	111	33	42%	53%	7.1%

【売上高】

- 《家庭用調理品》9%増収(単価影響:+1%、数量影響:+8%)
- ・ TVCMなどのプロモーション効果に加え、前期の卵不足からの反動増もあり米飯類、スナック類が大きく伸長
 - ・ パーソナルユースを含む新商品も貢献

《業務用調理品》7%増収(単価影響:+1%、数量影響:+6%)

- ・ 大手ユーザー向けのチキン加工品や米飯類が増収に寄与
- ・ 収益性の改善が進んだ惣菜ルート向け商品の数量も伸長

《海外》

- ・ 北米事業は、インフレに伴う消費減退の影響が継続し、現地通貨ベースは前期並み、為替換算影響で増収
- ・ GFPTニチレイ社(タイ)は、タイ国内外での販売拡大に加え、パーツ安も寄与し増収

【営業利益】

- ・ 円安などのコストアップを、関係会社の業績改善や増収効果、価格改定効果などで吸収し42%増益

■ 国内の保管事業において、前期の高在庫からの反動などが響き上期は減益

(単位：億円)

	第2四半期				上期				
	実績	前年同期間比		営業利益率	実績	前年同期間比		通期計画に対する進捗率	営業利益率
		増減	率			増減	率		
売上高合計	715	68	11%		1,373	114	9%	50%	
国内小計	485	18	4%		951	32	4%	51%	
物流ネットワーク	312	11	4%		614	21	3%	50%	
地域保管	173	7	4%		337	12	4%	51%	
海外	217	42	24%		403	72	22%	48%	
その他・共通	13	8	176%		19	9	93%	45%	
営業利益合計	41	△5	△11%	5.8%	75	△11	△13%	46%	5.5%
国内小計	37	△4	△9%	7.5%	70	△8	△11%	49%	7.4%
物流ネットワーク	17	△1	△7%	5.6%	33	△4	△10%	49%	5.4%
地域保管	19	△2	△11%	11.1%	37	△5	△11%	49%	11.0%
海外	10	1	8%	4.4%	16	2	12%	44%	4.0%
その他・共通	△5	△2	—	—	△11	△4	—	—	—

低温物流

【国内】 《売上高》

- ・ 3PL事業・輸配送事業が伸長したことや、関西エリアの港湾地区を中心に集荷が拡大したことなどにより4%増収

《営業利益》

- ・ 在庫水準の低迷が継続したことに加え、神戸六甲DCの償却費が増加したことなどにより11%減益

【海外】

《売上高》

- ・ 欧州での小売り向けの事業が堅調に推移したことに加え、円安による為替換算影響もあり22%増収

《営業利益》

- ・ 欧州での小売り向け事業に加え、前期に実施したタイ、マレーシアでの連結子会社化が寄与し12%増益

- 水産は魚卵の収益性低迷の影響が継続し1億円減益
- 畜産は価格改定と取り扱いカテゴリーの選択と集中を着実に実施し減収増益

(単位：億円)

		第2四半期				上期				
		実績	前年同期間比		営業利益率	実績	前年同期間比		通期計画に対する進捗率	営業利益率
			増減	率			増減	率		
水産	売上高	138	△15	△10%		266	△25	△9%	53%	
	営業利益	0	△1	△89%	0.1%	0	△1	△71%	3%	0.2%
畜産	売上高	170	△34	△17%		356	△58	△14%	52%	
	営業利益	3	1	28%	1.7%	6	2	39%	63%	1.8%

【水産】

《売上高》

- ・ 低収益商材の削減を進めたことにより9%減収

《営業利益》

- ・ 高収益商材やMSC・ASC認証品の販売拡大とともに、価格改定を実施したが、魚卵の収益性低迷の影響が継続し1億円減益

【畜産】

《売上高》

- ・ 輸入冷凍食肉などの低収益商材の削減により14%減収

《営業利益》

- ・ 外食向けの加工品の伸長や低収益商材の削減などにより2億円増益

通期計画

- 過去最高となる売上高7,000億円、営業利益405億円の前回計画から変更なし
- ROIC7.8%、ROE10%以上、EPS204円の達成を目指す

(単位：億円)

	下期			通期					
	計画	前年同期間比		計画	前年同期間比		前回計画比		営業 利益率
		増減	率		増減	率	前回計画	増減	
売上高	3,528	49	1%	7,000	199	3%	7,000	—	
(海外売上高)	875	122	16%	1,683	233	16%	1,683	—	
営業利益	208	13	7%	405	36	10%	405	—	5.8%
経常利益	206	5	2%	412	29	8%	412	—	
親会社株主に帰属する 四半期純利益ないし 当期純利益	131	3	2%	260	15	6%	260	—	
EPS (円)				204	12	6%	204	—	
EBITDA				662	51	8%	662	—	
ROIC (%)				7.8%	0.3%				
ROE (%)				10%以上					

海外売上高 エリア別内訳

(単位：億円)

合計	北米	欧州	東南 アジア	東アジア	その他
1,683	416	756	277	127	107
(+233)	(+72)	(+113)	(+30)	(+15)	(+3)

※ () 内は前年同期間比、P.29に参考情報あり

為替レート	25/3		24/3 実績
	想定	前回想定 からの増減	
米ドル/円	154.00	—	140.55
ユーロ/円	165.00	—	151.98
バーツ/円	4.20	—	4.04

※24/3実績は1月～12月までの期中平均で算出

連結業績予想（セグメント別）

おいしい瞬間を届けたい



(単位：億円)

	下期				通期					
	計画	前年同期間比		営業 利益率	計画	前年同期間比		前回計画比		営業 利益率
		増減	率			増減	率	前回計画	増減	
加工食品	1,628	149	10%		3,180	271	9%	3,180	—	
水産	234	△91	△28%		500	△116	△19%	500	—	
畜産	324	△80	△20%		680	△138	△17%	680	—	
低温物流	1,387	73	6%		2,760	186	7%	2,760	—	
不動産	22	△1	△2%		46	1	3%	46	—	
その他	37	△10	△21%		64	△4	△6%	64	—	
調整額	△103	8	—		△230	△2	—	△230	—	
売上高合計	3,528	49	1%		7,000	199	3%	7,000	—	
加工食品	99	3	3%	6.1%	210	36	21%	210	—	6.6%
水産	13	8	186%	5.4%	13	7	120%	13	—	2.6%
畜産	4	△2	△37%	1.1%	10	△0	△4%	10	—	1.5%
低温物流	90	18	25%	6.5%	165	7	4%	165	—	6.0%
不動産	10	2	19%	45.8%	19	2	15%	19	—	41.3%
その他	5	△8	△60%	14.6%	9	△4	△30%	9	—	14.1%
調整額	△13	△7	—	—	△21	△12	—	△21	—	—
営業利益合計	208	13	7%	5.9%	405	36	10%	405	—	5.8%

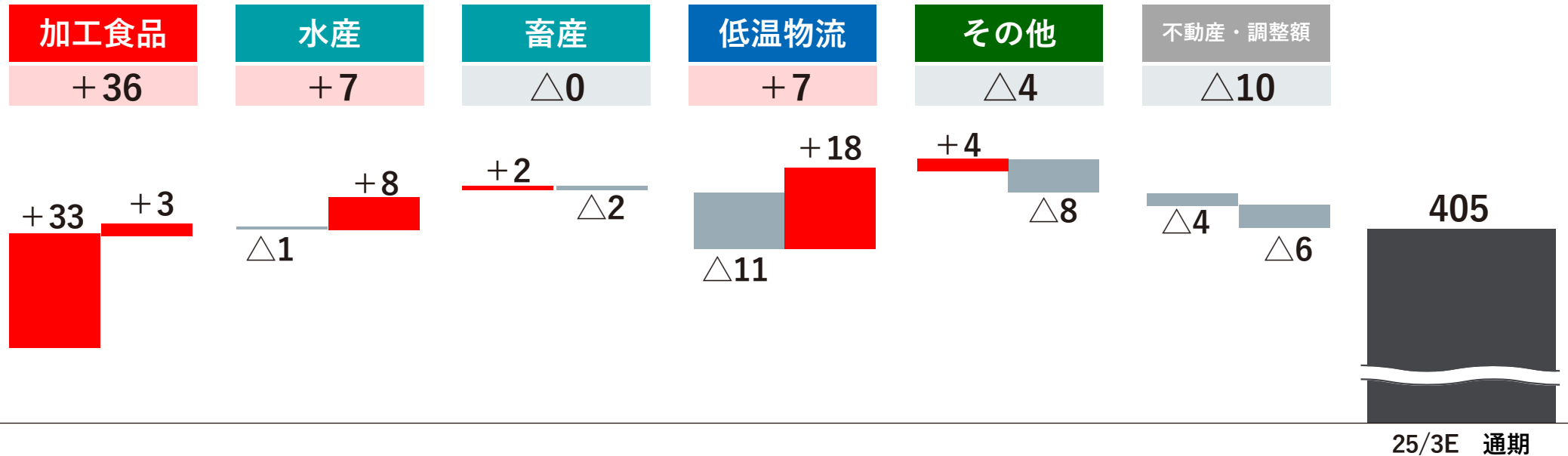
営業利益計画増減要因

おいしい瞬間を届けたい



(単位：億円)

棒グラフは
前年同期比での
左：上期
右：下期（計画）
を示す



加工食品

国内を中心とした販売数量の拡大に伴う増収効果や価格改定の継続効果などにより36億円増益

水産

事業構造改革の継続と魚卵の収益性が下期に回復することで7億円増益

低温物流

国内外での集荷拡大による保管・運送需要の取り込みと効率化や収益改善により7億円増益

その他

バイオサイエンス事業における新型コロナ・インフルエンザ抗原同時検査キットの前期の販売拡大に伴う反動減により4億円の減益

- 海外で追加コストが発生するが、国内の業務効率化などでカバーし前回計画から変更なし

(単位：億円)

	下期				通期						
	計画	前年同期間比		営業 利益率	計画	前年同期間比		前回計画比		営業 利益率	
		増減	率			増減	率	前回計画	増減		
加工食品	売上高合計	1,628	149	10%	3,180	271	9%	3,180	—		
	家庭用調理品	480	23	5%	935	61	7%	935	—		
	業務用調理品	584	58	11%	1,120	93	9%	1,120	—		
	農産加工品	131	13	11%	260	23	10%	260	—		
	海外	368	54	17%	713	94	15%	713	—		
	その他	64	2	3%	152	1	1%	152	—		
	営業利益	99	3	3%	6.1%	210	36	21%	210	—	6.6%

戦略カテゴリーの拡大

米飯類

- ・「本格炒め炒飯®」を主軸として販売数量を拡大
- ・業務用では少量規格や、顧客で調理アレンジができる商品の開発を強化

チキン加工品

- ・「特から®」に次ぐ主力商品として「むねから®」を位置付け拡販を強化
- ・業務用では、大手ユーザーとの取り組みや年末の最需要期に向けた商品提案を強化

新たな付加価値による市場創出

パーソナルユース（個食）

- ・期初計画通り、売上高300億円を見込む
- ・スナック類は冬場の最需要期に向け供給体制を整備し、機会損失を無くす
- ・家庭用では秋季新商品「本当に旨い担々麺」などの個食麺、ワンプレート商品の拡充などの販売を拡大
- ・業務用では人手不足を背景とした老健施設・屋内レジャー施設向けのニーズに対応

家庭用では 数量伸長の加速に向け TVCMとタイミングを合わせた 効果的な店頭露出方法の提案を強化

- ・今後はチキン加工品「特から®」「むねから®」「若鶏たれづけ唐揚げ」のTVCMを放映予定
- ・店頭ではTVCMに合わせ、購入者の動線上での売場（エンド陳列）を展開



複数商品の陳列はブランド認知向上にもつながる

- ・CVS冷食売場でのNB商品を拡販

海外事業の収益成長

北米

- 成長に向けた販促費の増加とチキン製品仕入コストの増加により営業利益計画を下方修正

■販売拡大施策

《アジアブランド》

- ・消費者のし好に合わせラインアップを拡充
- ・惣菜向けでは、小売店の人手不足を受け、店内調理が不要なパック済みタイプの商品開発に注力

《ラテンブランド -DEL CORAZÓN-》

- ・配荷は当初計画から3倍の実績を見込むため販促費用が増加
- ・購買を促すプロモーションを継続して実施

■チキン製品仕入コスト増加への対応策

- ・品質を維持した上での配合変更を検討
- ・来期の仕入価格交渉ではコストダウンを折衝



量販店のデリカコーナーはバックヤード調理が必要なタイプの売り場から変化



【北米】売上高・営業利益

		2025年3月期							
		実績	上期		計画	通期		前回計画比	
			増減	率		増減	率	前回計画	増減
売上高	連結通貨（億円）	188	22	13%	400	65	20%	400	—
	現地通貨（百万USD）	124	0	0%	259	21	9%	259	—
営業利益	連結通貨（億円）	8	△2	△21%	17	△7	△30%	25	△8
	現地通貨（百万USD）	5.3	△2.3	△30%	11.0	△6.3	△36%	16.0	△5.0
営業利益率（連結通貨）		4.3%			4.3%			6.3%	
為替レート（米ドル/円）		152.25			154.00			154.00	—

海外売上高実績と計画

（単位：億円）

		2025年3月期					
		実績	上期		計画	通期	
			増減	率		増減	率
売上高	北米	188	22	13%	400	65	20%
	GFPTニチレイ	121	16	15%	245	23	10%
	その他	35	2	6%	68	5	9%
	合計	345	40	13%	713	94	15%

営業利益の増減要因

(単位: 億円)

	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上期 実績	下期 計画	通期 計画	前回通期 計画比
前期 営業利益	38	40	78	96	174	—
増益要因	28	25	53	40	93	△6
増収効果 (※)	10	14	24	14	38	1
価格改定効果	5	5	10	17	27	2
海外関係会社の 業績影響額	10	7	17	△6	11	△11
生産性改善	2	2	4	6	10	1
減価償却費の増減	2	0	2	—	2	—
その他	△1	△3	△4	9	5	1
減益要因	△8	△12	△20	△37	△57	6
円安による原材料・ 仕入コストの増減	△8	△8	△16	△29	△45	1
原材料・仕入コストの 増減	△1	△1	△2	△1	△3	3
物流コストの増減	0	△1	△1	△6	△7	2
動力燃料コストの増減	1	△2	△1	△1	△2	—
当期 営業利益	58	52	111	99	210	—

※収益性重視の施策の実行による利益効果も含む

主な内容

- ・価格改定効果
2025年2月から実施する改定効果を反映
- ・海外関係会社の業績影響額
北米での販促費とチキン製品仕入コスト増加や、GFPTニチレイ社（タイ）での輸出売上高の為替影響（パーツ高）を反映
- ・原材料・仕入コストの増減
主に卵・鶏肉類の相場軟化が継続
- ・物流コストの増減
在庫削減の取り組みによる効果

■好調な輸配送事業に加え、下期での輸入貨物の集荷拡大により、通期で増益に転換

(単位：億円)

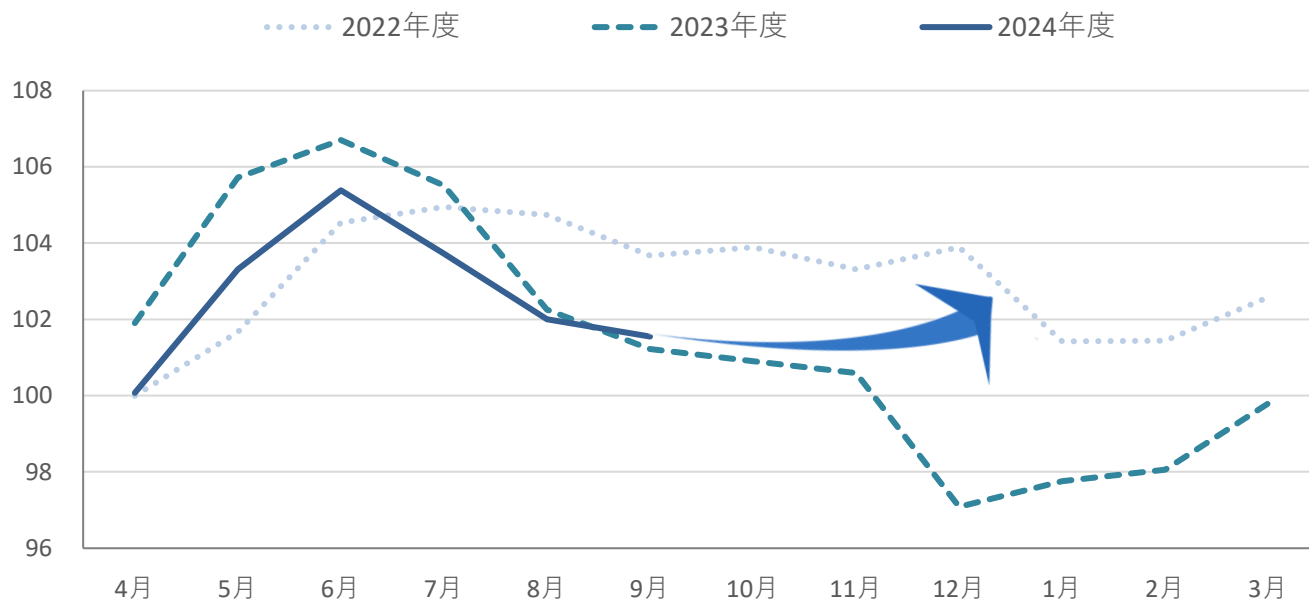
		下期				通期					
		計画	前年同期間比		営業 利益率	計画	前年同期間比		前回計画比		営業 利益率
			増減	率			増減	率	前回計画	増減	
低温 物流	売上高合計	1,387	73	6%		2,760	186	7%	2,760	—	
	国内小計	927	21	2%		1,878	54	3%	1,878	—	
	物流ネットワーク	608	15	3%		1,222	36	3%	1,222	—	
	地域保管	319	6	2%		656	18	3%	656	—	
	海外	437	56	15%		840	129	18%	840	—	
	その他・共通	23	△5	△19%		42	4	10%	42	—	
	営業利益合計	90	18	25%	6.5%	165	7	4%	165	—	6.0%
	国内小計	73	12	20%	7.9%	143	4	3%	143	—	7.6%
	物流ネットワーク	34	6	21%	5.6%	67	2	3%	67	—	5.5%
	地域保管	39	6	19%	12.2%	76	2	2%	76	—	11.6%
	海外	21	△0	△1%	4.8%	37	1	4%	37	—	4.4%
その他・共通	△4	6	—	—	△15	1	—	△15	—	—	

次世代に向けた事業基盤の構築

集荷拡大への下期の見通し

- ・ 輸入貨物の取り扱いが緩やかに回復基調
- ・ 大都市圏を中心に更なる集荷拡大に努め、年末商材などの保管・運送需要を最大限に取り込む

当社の12大都市 在庫屯数推移

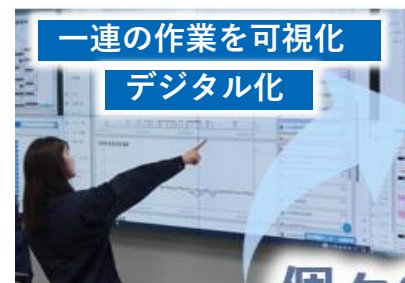


※2022年4月の在庫屯数を100とした場合の推移

持続的成長への取り組み

R&Dセンターの設置

- ・ ロボット、自動搬送機などの最先端技術の深耕およびこれらを活用した一連の業務フローの検証を目的として、R&Dセンターを設置
- ・ 今年度の設備導入について計画通り実施中
- ・ 更なる作業効率化に向けた検証実験を進める



個々の先端技術
を一連のフローで検証



売上・利益両面での成長実現

海外売上高

(単位：億円)

		2025年3月期					
		上期			通期		
		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比	
			増減	率		増減	率
売上高	欧州	363	60	20%	756	114	18%
	東アジア	27	3	15%	57	5	10%
	東南アジア	13	9	206%	27	10	59%
	合計	403	72	22%	840	129	18%

欧州売上高

		2025年3月期					
		上期			通期		
		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比	
			増減	率		増減	率
連結通貨 (億円)	保管	144	31	28%	294	50	20%
	通関・輸配送	219	28	15%	463	64	16%
	合計	363	60	20%	756	114	18%
現地通貨 (百万ユーロ)	保管	88	10	14%	178	18	11%
	通関・輸配送	133	2	2%	280	18	7%
	合計	221	13	6%	458	36	8%

欧州

【港湾ビジネス】

- ・オランダ、英国の組織再編のシナジー効果を発揮し、ワンストップサービスを拡大

【ポーランド】…小売り向け冷凍物流を中心に事業展開

- ・2024年7月に子会社であるFrigo Logistics Sp. z o.o.にて、ズニン物流センターを増設
- ・増強した保管能力とポーランド全土をカバーする輸配送ネットワークを掛け合わせた高度なワンストップサービスを提供し、更なる拡大を目指す

ASEAN

【ベトナム】

- ・2024年7月に子会社であるNichirei TBA Logistics Vietnam LLCの物流センターが稼働開始
- ・今期は倉庫安定稼働と顧客誘致のための営業活動に注力
- ・ベトナムの経済発展とともに高まる低温物流ニーズを獲得し、ASEAN地域における事業の更なる拡大を目指す

営業利益の増減要因

(単位：億円)

	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上期 実績	下期 計画	通期 計画	前回通期 計画比
前期 営業利益	40	47	86	72	158	—
増益要因	△3	△2	△5	21	16	—
集荷増による業績影響額	△1	△1	△2	5	3	—
業務効率化	△2	△1	△3	5	2	—
適正料金收受などの施策効果	2	1	3	6	9	—
海外	1	1	2	△1	1	—
その他	△3	△2	△5	6	1	—
減益要因	△3	△3	△6	△3	△9	—
エネルギーコストの増減	1	△1	0	△3	△3	—
外部委託コスト増 (庸車・倉庫内作業含む)	△2	△1	△3	△3	△6	—
国内新設拠点稼働の一時費用	△2	△1	△3	3	—	—
当期 営業利益	34	41	75	90	165	—

主な内容

- ・ 集荷増による業績影響額
上期は在庫水準低下の影響を受けたが、好調な輸配送事業も併せて積極的な集荷拡大を行い下期回復を図る
- ・ 適正料金收受などの施策効果
エネルギーコスト、外部委託コストの上昇影響を適正料金收受などにより軽減
- ・ 海外
欧州の港湾地区での集荷拡大やクロスボーダー輸送が継続伸長するが、CSRD関連費用や、ベトナムでの新設拠点稼働によるコスト増加を受け、前期比では増益幅が縮小
- ・ その他
上期はシステム関連費用などが増加し、下期はR&Dセンターの設置など持続的成長に向けた投資も行うが、前下期の業務効率化に関する支出の反動減を見込む

■ 水産、畜産ともに事業構造改革を継続し、通期計画の達成を目指す

(単位：億円)

		下期				通期					
		計画	前年同期間比		営業利益率	計画	前年同期間比		前回計画比		営業利益率
			増減	率			増減	率	前回計画	増減	
水産	売上高	234	△91	△28%		500	△116	△19%	500	—	
	営業利益	13	8	186%	5.4%	13	7	120%	13	—	2.6%
畜産	売上高	324	△80	△20%		680	△138	△17%	680	—	
	営業利益	4	△2	△37%	1.1%	10	△0	△4%	10	—	1.5%

【水産】 《売上高》

- ・ 低収益商材の大幅削減を計画的に進めつつ、北米をメインにした海外販売の強化に注力

《営業利益》

- ・ 魚卵で高値在庫の入れ替えが進むことや、価格改定、高収益商材及び認証品の取り扱い拡大に注力し7億円増益を目指す

【畜産】 《売上高》

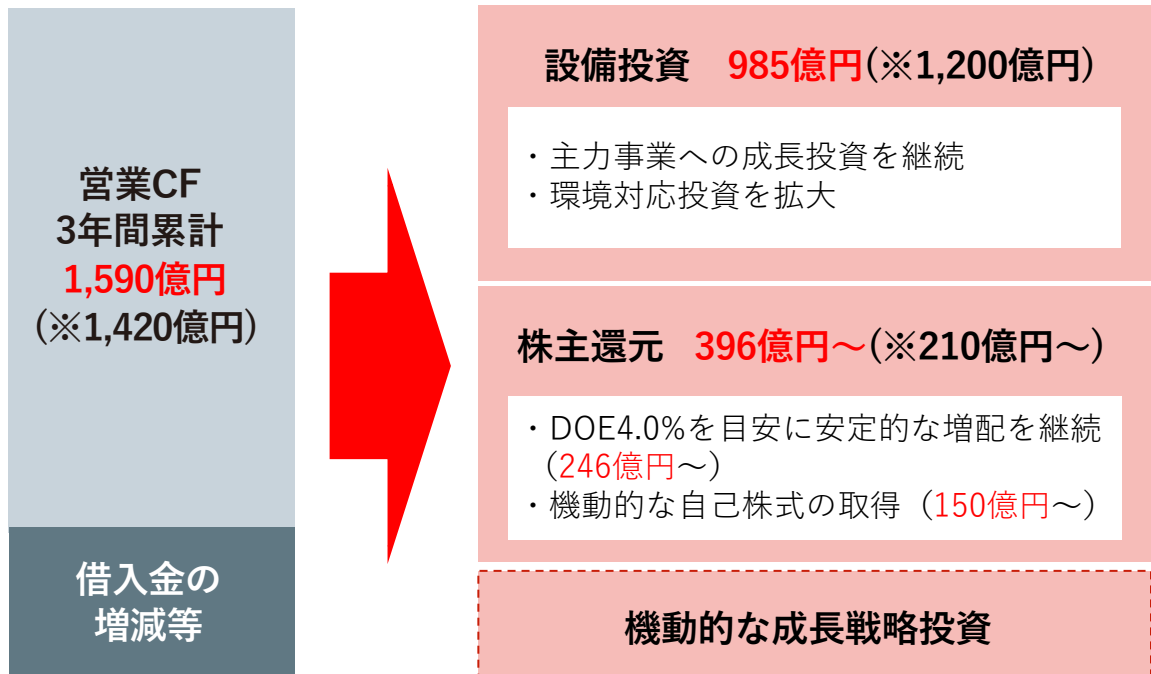
- ・ 低収益商材の削減を強化する一方で、収益性の高い加工品や健康価値食肉など差別化商品の拡販を推進

《営業利益》

- ・ 輸入冷凍品などの低収益商材の削減により、前期並みの利益を見込む

- 営業キャッシュ・フローは、持続的成長に向けた投資や株主還元引き続き充当
- 低温物流の海外拠点拡大に向けた投資を計画通り実施

【財務戦略】



※…当初中計の数値を表示

【設備投資】

今期の設備投資のセグメント別の内訳 (単位: 億円)

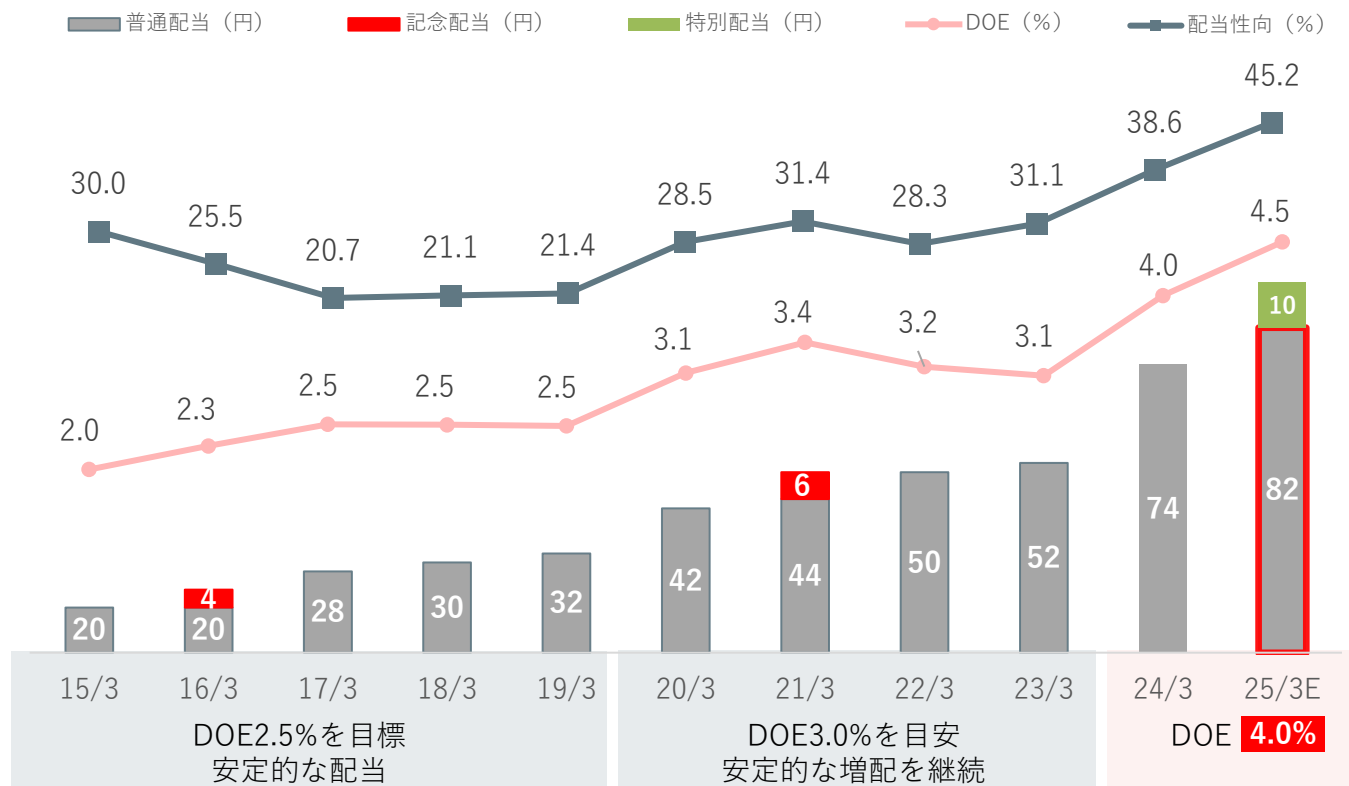
	上期実績	通期計画	前回計画比
加工食品	29	108	—
低温物流	110	200	—
その他	11	60	—
合計	150	368	—

今期の設備投資等の主な内容

	主な内訳	今期計画
低温物流	ポーランド子会社冷蔵倉庫新設・増設	50億円 (既計上済分36億円)
	ベトナム子会社冷蔵倉庫新設	11億円 (既計上済分10億円)

- 今期の配当金は、新たに**特別配当10円**を加えた前期比18円増の**年間92円に増額修正**
- 株主還元の充実および資本効率の向上を目的とし、**自己株式の取得および消却**を決定
- 2025年4月1日を効力発生日として、**株式分割**（普通株式1株を2株に分割）を実施予定

配当金の推移



自己株式の取得

取得株数	300万株（上限）
取得価額	100億円（上限）
取得期間	2024年11月6日～2025年2月28日
取得方法	市場買い付け

自己株式の消却

消却株数	5,636,400株
消却予定日	2024年11月13日

株式分割

基準日	2025年3月31日
-----	------------

Appendix

貸借対照表の増減要因

(単位：億円)

	2024年3月期 期末	2025年3月期 第2四半期	増減
資産の部			
流動資産	2,014	2,079	65 ①
固定資産	2,837	2,897	60 ②
資産合計	4,852	4,976	124
負債・純資産の部			
流動負債	1,235	1,186	△49
固定負債	957	1,011	54 ③
負債合計	2,192	2,197	4
純資産合計	2,659	2,779	120 ④
（うち自己資本）	2,534	2,633	99
有利子負債	980	1,024	44
（うちリース債務除く）	839	890	51

	2024年3月期 第2四半期累計	2025年3月期 第2四半期累計	増減
設備投資額 （うちリース資産除く）	118 99	150 138	31 38 ⑤
減価償却費 （うちリース資産除く）	118 100	118 101	0 1

【主な増減要因】

- ①現金及び預金 + 14億円
- 商品及び製品 + 65億円
- ②建設仮勘定 + 46億円
- ③長期借入金 + 60億円
- ④親会社株主に帰属する当期純利益 + 128億円
- 配当金 ▲47億円
- 繰延ヘッジ損益 ▲39億円
- 為替換算調整勘定 + 71億円

【主な実績】

- ⑤ズニン冷蔵倉庫増設（ポーランド） 20億円
- ワルシャワ冷蔵倉庫新設（ポーランド） 16億円
- ベトナム冷蔵倉庫新設 10億円

2025年3月期 年間業績・計画一覧

おいしい瞬間を届けたい



(単位：億円)

	第1四半期			第2四半期			下期			通期		
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
加工食品	778	63	9%	774	59	8%	1,628	149	10%	3,180	271	9%
家庭用調理品	226	18	9%	229	20	10%	480	23	5%	935	61	7%
業務用調理品	271	17	7%	266	18	7%	584	58	11%	1,120	93	9%
農産加工品	64	6	10%	65	4	7%	131	13	11%	260	23	10%
海外	180	23	15%	165	16	11%	368	54	17%	713	94	15%
その他	38	△1	△3%	50	0	0%	64	2	3%	152	1	1%
水産	127	△11	△8%	138	△15	△10%	234	△91	△28%	500	△116	△19%
畜産	186	△24	△12%	170	△34	△17%	324	△80	△20%	680	△138	△17%
低温物流	659	45	7%	715	68	11%	1,387	73	6%	2,760	186	7%
国内小計	466	14	3%	485	18	4%	927	21	2%	1,878	54	3%
物流ネットワーク	302	9	3%	312	11	4%	608	15	3%	1,222	36	3%
地域保管	164	5	3%	173	7	4%	319	6	2%	656	18	3%
海外	186	31	20%	217	42	24%	437	56	15%	840	129	18%
その他・共通	6	1	18%	13	8	176%	23	△5	△19%	42	4	10%
不動産	12	1	5%	12	1	13%	22	△1	△2%	46	1	3%
その他	12	2	20%	15	4	33%	37	△10	△21%	64	△4	△6%
調整額	△62	△4	—	△65	△6	—	△103	8	—	△230	△2	—
売上高合計	1,712	72	4%	1,761	78	5%	3,528	49	1%	7,000	199	3%
(海外売上高合計)	394	54	16%	414	57	16%	875	122	16%	1,683	233	16%
加工食品	58	20	54%	52	13	31%	99	3	3%	210	36	21%
水産	0	0	36%	0	△1	△89%	13	8	186%	13	7	120%
畜産	3	1	50%	3	1	28%	4	△2	△37%	10	△0	△4%
低温物流	34	△6	△15%	41	△5	△11%	90	18	25%	165	7	4%
国内小計	33	△5	△12%	37	△4	△9%	73	12	20%	143	4	3%
物流ネットワーク	16	△2	△13%	17	△1	△7%	34	6	21%	67	2	3%
地域保管	18	△2	△11%	19	△2	△11%	39	6	19%	76	2	2%
海外	7	1	18%	10	1	8%	21	△0	△1%	37	1	4%
その他・共通	△6	△2	—	△5	△2	—	△4	6	—	△15	1	—
不動産	4	△0	△2%	5	1	23%	10	2	19%	19	2	15%
その他	1	2	—	3	2	982%	5	△8	△60%	9	△4	△30%
調整額	△6	△1	—	△3	△3	—	△13	△7	—	△21	△12	—
営業利益合計	95	16	20%	101	7	7%	208	13	7%	405	36	10%
経常利益	103	20	24%	103	5	5%	206	5	2%	412	29	8%
親会社株主に帰属する四半期純利益ないし当期純利益	64	15	30%	64	△3	△4%	131	3	2%	260	15	6%

各中計期間の業績の推移

おいしい瞬間を届けたい



(単位：億円)	energy 2012 (10-12年度)			RISING 2015 (13-15年度)			POWER UP 2018 (16-18年度)			WeWill 2021 (19-21年度)			Compass Rose 2024 (22-24年度)		
	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3E
加工食品事業	1,619	1,742	1,616	1,807	1,939	1,992	2,050	2,207	2,266	2,348	2,255	2,442	2,757	2,909	3,180
水産事業	668	657	637	686	687	688	694	715	712	658	631	677	690	616	500
畜産事業	783	756	755	801	895	920	881	904	911	883	841	803	858	818	680
低温物流事業	1,394	1,495	1,564	1,684	1,783	1,849	1,869	1,951	2,010	2,065	2,123	2,245	2,442	2,574	2,760
不動産事業	66	49	47	50	47	46	46	49	48	50	46	43	45	45	46
その他の事業	62	60	58	37	44	52	45	53	58	57	49	42	61	68	64
調整額	△ 215	△ 210	△ 200	△ 191	△ 196	△ 194	△ 189	△ 199	△ 204	△ 212	△ 218	△ 226	△ 231	△ 228	△ 230
売上高合計	4,378	4,549	4,477	4,874	5,200	5,354	5,397	5,680	5,801	5,849	5,728	6,027	6,622	6,801	7,000
加工食品事業	46	52	60	34	54	80	139	146	146	167	172	142	140	174	210
水産事業	6	2	1	4	2	7	8	3	2	4	5	10	10	6	13
畜産事業	4	5	5	1	4	4	16	13	15	9	13	12	10	10	10
低温物流事業	73	74	86	89	87	100	106	113	114	118	131	146	151	158	165
不動産事業	36	24	23	24	21	22	21	22	21	20	20	17	18	17	19
その他の事業	4	5	4	4	6	9	6	8	3	△ 3	△ 3	△ 3	8	13	9
調整額	△ 2	0	0	1	0	△ 5	△ 3	△ 5	△ 6	△ 6	△ 8	△ 9	△ 7	△ 9	△ 21
営業利益合計	167	162	179	158	174	216	293	299	295	310	329	314	329	369	405
経常利益	161	153	172	144	169	214	291	307	299	318	335	317	334	383	412
親会社株主に帰属する 当期純利益	40	79	98	89	95	135	188	191	199	196	212	234	216	245	260
総資産	2,846	2,905	2,979	3,185	3,420	3,385	3,462	3,673	3,773	3,900	4,057	4,276	4,573	4,852	
設備投資等（リース資産を含む）	221	122	132	240	242	162	139	250	241	273	378	279	304	313	368
ROIC（%）				4.2	4.3	5.9	8.0	8.1	7.8	7.6	7.5	7.8	6.9	7.5	7.8
自己資本比率（%）	40.4	40.2	41.3	41.9	43.0	44.4	46.0	44.3	46.9	47.3	50.1	49.4	49.1	52.2	
営業利益率（%）	3.8	3.6	3.8	3.1	3.3	4.0	5.4	5.3	5.1	5.3	5.8	5.2	5.0	5.4	5.8
ROE（自己資本利益率）（%）	3.4	6.8	8.2	6.9	6.8	9.1	12.1	11.9	11.7	10.9	10.9	11.3	9.9	10.3	10%以上
1株当たり純利益（EPS）	13.08	26.35	33.40	31.12	33.29	94.30	135.11	142.23	149.65	147.16	159.19	176.72	167.14	191.80	203.57
1株当たり配当金（DPS）	9	9	10	10	10	12	28	30	32	42	50	50	52	74	92
期末日現在株価（円）	355	388	561	436	674	916	2,754	2,940	2,728	3,055	2,849	2,369	2,684	4,143	

注：①設備投資等には無形固定資産を含む

②13/3より、加工食品の売上高は、売上計上基準の変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映

③16/3以前は、株式併合前の数値となる

ROICの推移

おいしい瞬間を届けたい



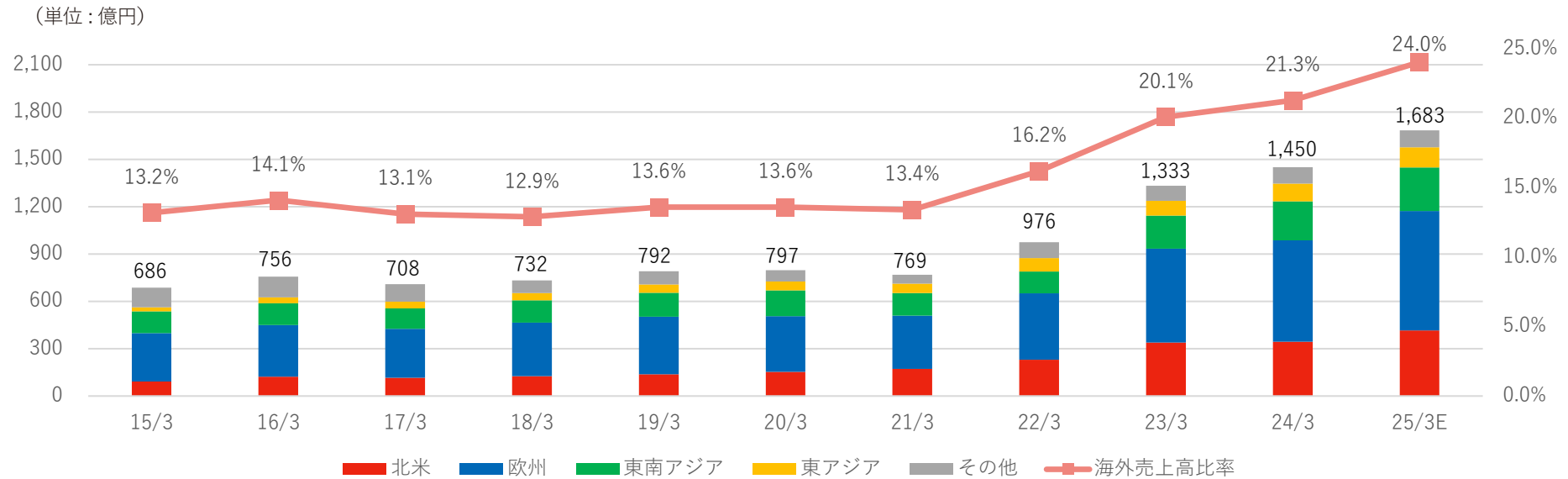
	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3E
グループ全体 ROIC (%)	4.2	4.3	5.9	8.0	8.1	7.8	7.6	7.5	7.8	6.9	7.5	7.8
NOPAT率 (%)	2.0	2.1	2.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.9	4.1	3.5	3.9	4.0
使用資本回転率 (回)	2.1	2.0	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	2.0	1.9	1.9
WACC (%)										4.0	4.0	4.0
加工食品												
簡易ROIC (%)	3.2	5.2	8.3	15.3	14.4	13.3	15.1	13.9	10.3	8.5	10.8	12.5
税引後営業利益率 (%)	1.0	1.8	2.7	4.7	4.6	4.5	4.9	5.3	4.0	3.5	4.1	4.6
主要使用資本回転率 (回)	3.1	2.9	3.1	3.3	3.2	3.0	3.1	2.6	2.6	2.4	2.6	2.8
低温物流												
簡易ROIC (%)	5.2	5.0	6.0	6.9	7.0	7.1	7.2	7.8	7.7	7.7	7.2	7.2
税引後営業利益率 (%)	3.3	3.1	3.6	3.9	4.0	3.9	4.0	4.3	4.5	4.3	4.2	4.1
主要使用資本回転率 (回)	1.6	1.6	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.7	1.8
水産												
簡易ROIC (%)	1.5	0.8	2.2	2.7	1.0	0.6	1.5	2.0	3.3	3.5	2.9	7.5
税引後営業利益率 (%)	0.4	0.2	0.6	0.8	0.3	0.2	0.5	0.6	1.0	1.0	0.7	1.8
主要使用資本回転率 (回)	3.9	3.7	3.4	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.7	4.4	4.2
畜産												
簡易ROIC (%)	1.6	3.5	6.2	29.4	16.3	16.8	13.6	21.5	20.2	13.8	12.4	16.8
税引後営業利益率 (%)	0.1	0.3	0.3	1.3	1.0	1.1	0.7	1.1	1.0	0.8	0.9	1.0
主要使用資本回転率 (回)	15.9	13.1	22.3	23.3	16.4	15.1	19.1	20.0	20.1	17.9	14.1	16.2
バイオサイエンス												
簡易ROIC (%)	8.4	9.6	14.9	9.5	9.4	2.4	△ 2.2	△ 3.2	△ 3.0	8.9	12.5	9.2
税引後営業利益率 (%)	7.6	9.4	13.2	11.1	11.4	4.5	△ 4.5	△ 6.6	△ 6.1	12.0	15.2	10.9
主要使用資本回転率 (回)	1.1	1.0	1.1	0.9	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.8	0.8

※簡易ROIC=税引後営業利益÷主要使用資本（営業資金＋有形無形固定資産）

※計算単位を見直したことにより、過去データの一部を本資料より修正

エリア別連結海外売上高

おいしい瞬間を届けたい

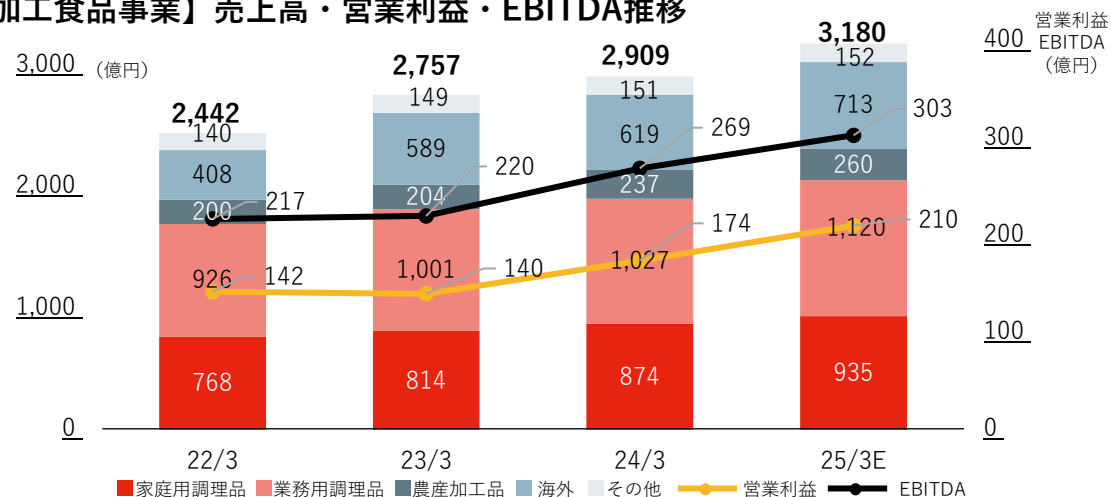


(単位: 億円)

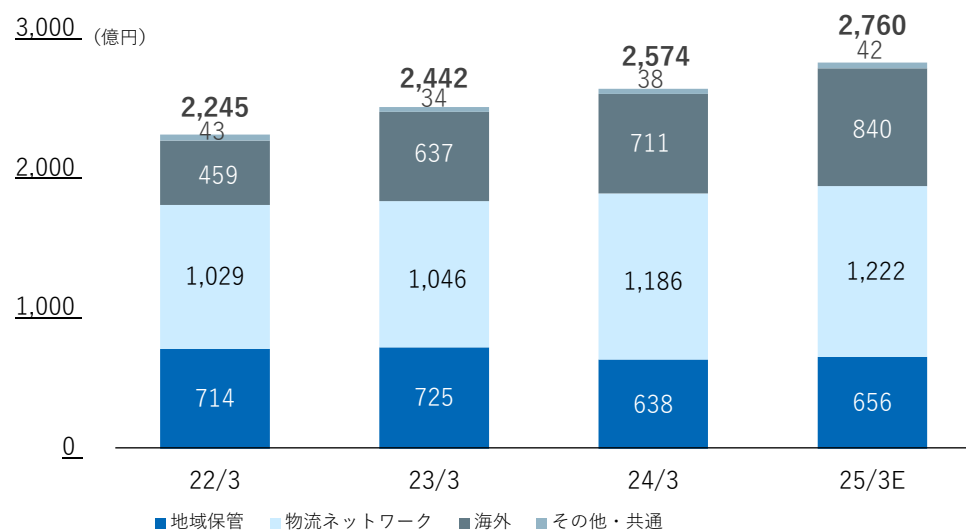
	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3E
海外売上高合計	686	756	708	732	792	797	769	976	1,333	1,450	1,683
北米	92	122	116	126	138	153	171	230	338	344	416
欧州	307	328	309	339	365	353	338	421	595	643	756
東南アジア	137	137	131	142	151	163	144	137	210	247	277
東アジア	26	38	41	45	53	56	59	86	94	112	127
その他	125	131	112	80	84	72	56	101	95	104	107
海外売上高比率	13.2%	14.1%	13.1%	12.9%	13.6%	13.6%	13.4%	16.2%	20.1%	21.3%	24.0%
為替レート											
米ドル/円	105.86	121.05	108.87	112.19	110.44	109.06	106.83	109.80	131.45	140.55	154.00
ユーロ/円	140.43	134.32	120.36	126.66	130.42	122.08	121.82	129.88	138.05	151.98	165.00

※実績の為替レートは当該年1月～12月までの期中平均で算出している

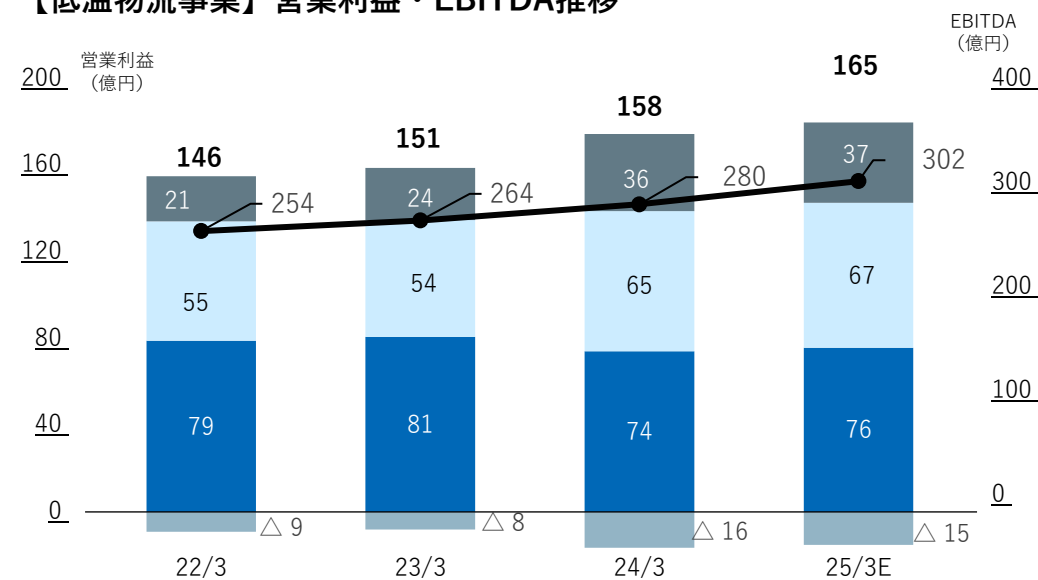
【加工食品事業】売上高・営業利益・EBITDA推移



【低温物流事業】売上高推移



【低温物流事業】営業利益・EBITDA推移



SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比

市場	24/3期 1 Q	24/3期 2 Q	24/3期 3 Q	24/3期 4 Q	24/3期累計	25/3期 1 Q	25/3期 2 Q
全体	109%	106%	106%	106%	107%	103%	105%
畜肉フライ	128%	123%	118%	107%	119%	96%	96%
ピラフご飯類	103%	104%	105%	104%	104%	101%	107%
おにぎり	112%	107%	125%	109%	113%	107%	113%
和風スナック	106%	107%	109%	103%	106%	108%	111%
ハンバーグ	112%	110%	109%	95%	106%	91%	98%

出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年四半期比の推移（70代まで））。購入ルート＝生協店舗・店舗以外を含む。（宅配等含む）

当社の価格改定の【実施時期】と【改定効果の発現時期】

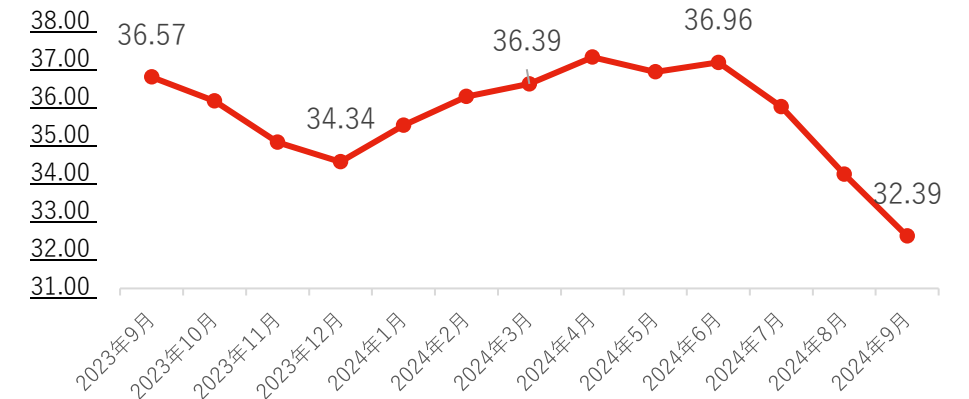
実施時期	改定対象	改定率 (当初計画)	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期				
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
2021年11月	家庭用	約4～8%	■																
	業務用	約3～10%	■																
2022年3月	農産加工品	約8～15%	■																
2022年4月	業務用	約4～10%	■																
2022年8月	家庭用	約8～20%		■															
2022年9月	業務用	約4～22%		■															
2023年2月	家庭用	約6～20%				■													
	業務用	約5～25%				■													
2023年7月	業務用	約8～27%					■												
2024年3月	家庭用	約1～6%								■									
2024年4月	業務用	約1～6%								■									
2024年9月	農産加工品、家庭用	約3～7%										■							
2024年10月	農産加工品、業務用	約5～7%											■						
2025年2月	家庭用	約10～30%													■				
	業務用	約5～30%													■				
改定効果（億円）			10	25	32	47	50	39	30	10	5	5	17						
			合計114億円				合計129億円				合計27億円								

海外売上高実績と計画

(単位：億円)

		2025年3月期											
		第2四半期			上期			下期			通期		
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
売上高	北米	91	13	16%	188	22	13%	212	44	26%	400	65	20%
	GFPTニチレイ	57	4	7%	121	16	15%	124	7	6%	245	23	10%
	その他	16	△0	△1%	35	2	6%	33	4	12%	68	5	9%
	合計	165	16	11%	345	40	13%	368	54	17%	713	94	15%

【タイ】参考情報：ドルバーツの推移 ※月末レートで算出



【北米】売上高・営業利益

		2025年3月期											
		第2四半期			上期			下期			通期		
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
売上高	連結通貨 (億円)	91	13	16%	188	22	13%	212	44	26%	400	65	20%
	現地通貨 (百万USD)	58	1	2%	124	0	0%	135	21	18%	259	21	9%
営業利益	連結通貨 (億円)	3	△1	△35%	8	△2	△21%	9	△5	△37%	17	△7	△30%
	現地通貨 (百万USD)	1.6	△1.3	△44%	5.3	△2.3	△30%	5.7	△4.0	△41%	11.0	△6.3	△36%
営業利益率 (連結通貨)		2.9%			4.3%			4.2%			4.3%		
為替レート (米ドル/円)					152.25			154.00			154.00		

海外売上高実績と計画

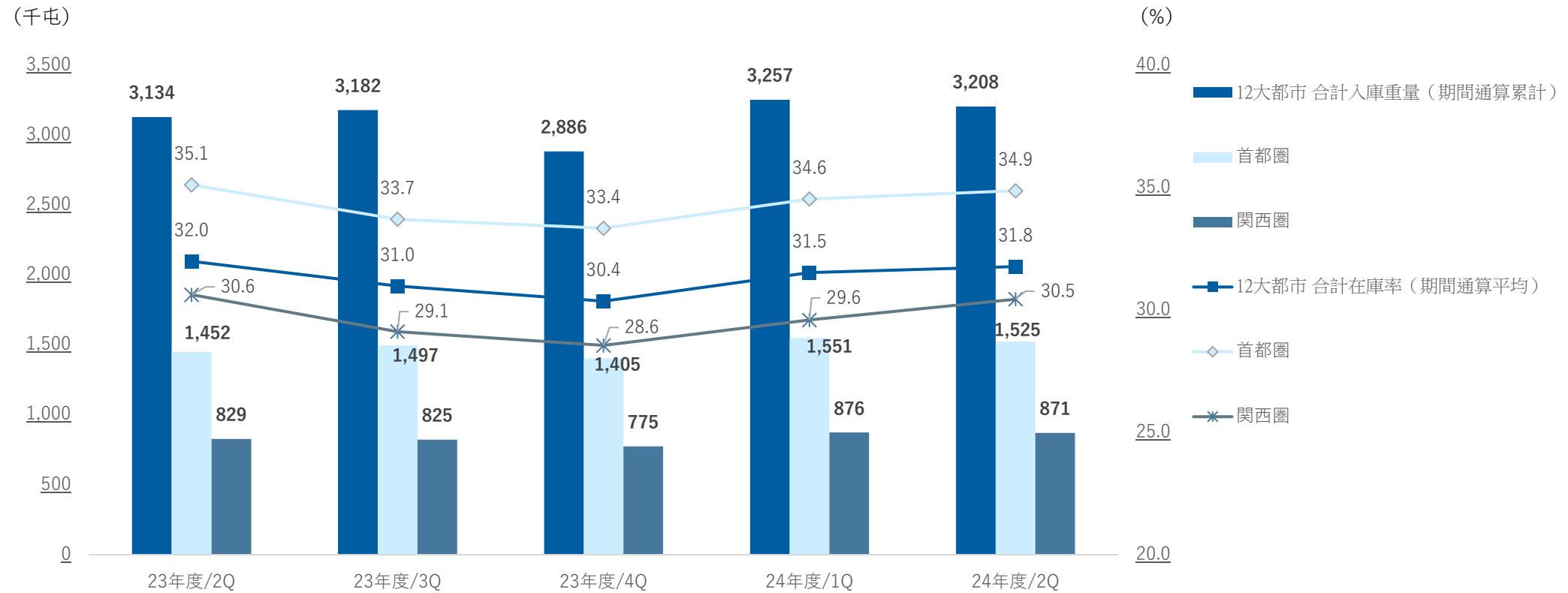
(単位：億円)

		2025年3月期											
		第2四半期			上期			下期			通期		
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
増減	率		増減	率		増減	率		増減	率			
売上高	欧州	195	36	23%	363	60	20%	393	54	16%	756	114	18%
	東アジア	15	2	13%	27	3	15%	30	2	5%	57	5	10%
	東南アジア	7	4	120%	13	9	206%	14	1	8%	27	10	59%
	合計	217	42	24%	403	72	22%	437	57	15%	840	129	18%

【欧州】売上高

		2025年3月期											
		第2四半期			上期			下期			通期		
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
増減	率		増減	率		増減	率		増減	率			
連結通貨 (億円)	保管	76	17	29%	144	31	28%	150	19	15%	294	50	20%
	通関・輸配送	119	19	19%	219	28	15%	244	36	17%	463	64	16%
	合計	195	36	23%	363	60	20%	393	54	16%	756	114	18%
現地通貨 (百万ユーロ)	保管	46	6	15%	88	10	14%	90	8	9%	178	18	11%
	通関・輸配送	71	4	6%	133	2	2%	147	16	12%	280	18	7%
	合計	116	10	9%	221	13	6%	237	23	11%	458	36	8%

業界の冷蔵倉庫稼働状況



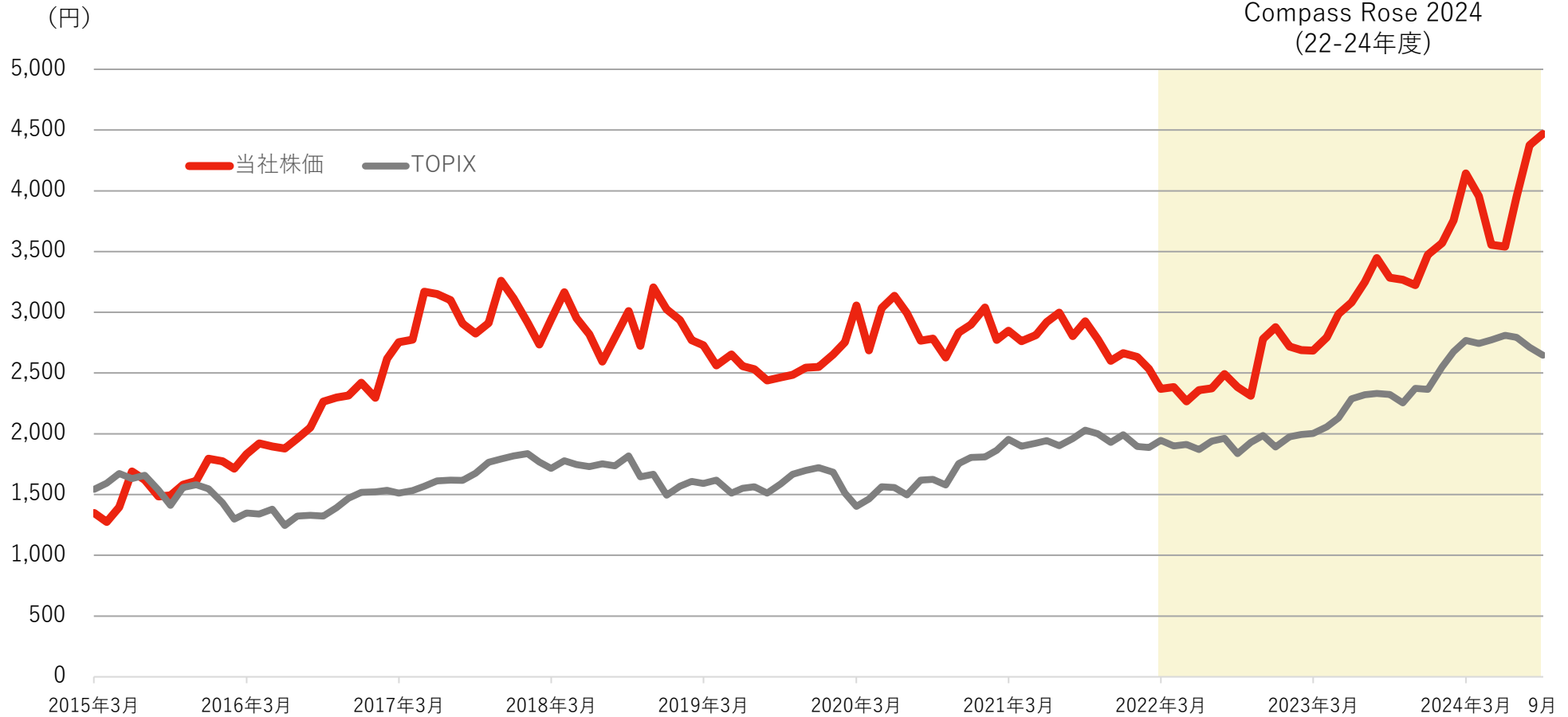
出典：一般社団法人 日本冷蔵倉庫協会「主要12都市受寄物庫腹利用状況一覧表」を当社で加工

当社の株価推移

おいしい瞬間を届けたい



中期経営計画
Compass Rose 2024
(22-24年度)



	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	24/9
当社株価	1,348	1,832	2,754	2,940	2,728	3,055	2,849	2,369	2,684	4,143	4,467
TOPIX	1,543	1,347	1,513	1,716	1,592	1,403	1,954	1,946	2,004	2,769	2,646

■個人投資家の皆様を対象としたページを開設

<https://www.nichirei.co.jp/ir/individual>

■GPIFが採用する6つのESG指数すべてに継続選定

<https://www.nichirei.co.jp/news/2024/466.html>

■統合レポート2024を発行

<https://www.nichirei.co.jp/ir/library/integrated.html>

■IRサイトに、キューレイ工場見学会に関する情報を公開

<https://www.nichirei.co.jp/ir/library/event.html>

■11月新商品発売のお知らせ

https://www.nichireifoods.co.jp/news/2024/info_id41514/

■ニチレイフーズ公式ホームページ内に研究開発コンテンツを新設
技術開発へのこだわりと強みを発信！

https://www.nichireifoods.co.jp/news/2024/info_id41529/

■スマートファクトリーの一環として独自のデジタル帳票システム「NDPS」を導入
生産工場のペーパーレス化、業務効率向上を実現

https://www.nichireifoods.co.jp/news/2024/info_id41534/

■商品価格一部改定のお知らせ

https://www.nichireifoods.co.jp/news/2024/info_id41689/

ごま油香る
チャプチェロール



たっぷり野菜の
和風ハンバーグ



当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみにより全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。